

中小企業景況情報

本情報は、県内12商工会で実施した中小企業景況調査の集計結果(179企業)をまとめた

サービス業

発行・長崎県商工会連合会
長崎市桜町4-1
長崎商工会館8階
問い合わせ先 TEL 095(824)5413

〔主要景況項目の動向〕

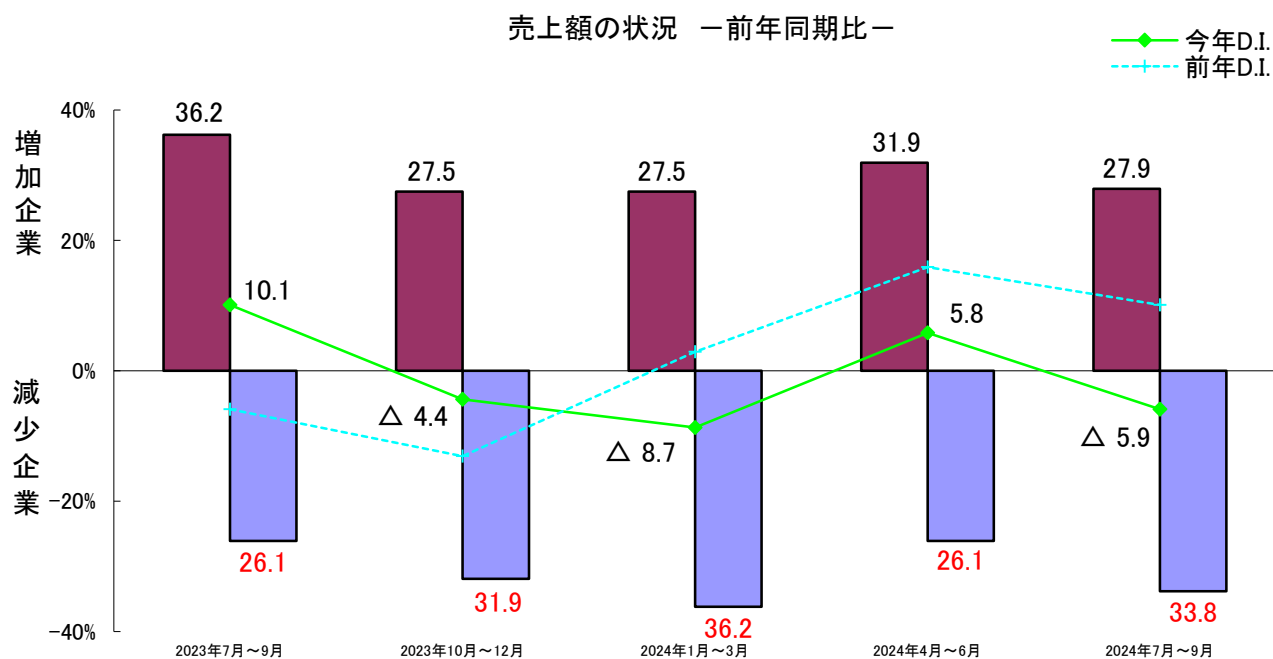
主要項目	2023年		2024年			(見通し)
	7月～9月	10月～12月	1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月
売上額						
採算						
資金繰り						
業況の動向						

晴 D・I 50.1～100
 晴時々曇 D・I 20.1～50
 曇 D・I 20～△20
 曇時々雨 D・I △20.1～△50
 雨 D・I △50.1～△100

〔調査対象企業のコメント〕

製造業	<ul style="list-style-type: none"> 原材料価格の上昇については引き続き悩みである。補助金等があれば活用していきたい。【その他のパン・菓子製造業】 過疎化による需要の低下を実感している。【石工品製造業】 従業員不足、高齢化の影響を強く感じている。求人を出してもなかなか応募が来ない。【他に分類されない金属製品製造業】 若干の売上増加がみられるが、今後、人件費の増加、原材料の上昇が考えられるため、販売価格を値上げする可能性が大きい。その場合、引き合いの減少が心配である。【めん類製造業】
建設業	<ul style="list-style-type: none"> コロナウイルス感染拡大後に比べ、売上は増加傾向にあるが、現代人の仕事に取り組む姿勢や求人活動のスタイルに変化が見られ、技術職業種の再構築を計らないと事業の伝承が危ぶまれる。【熱絶縁工事業】 相変わらず人手不足が続いており、仕事は有るものの職員と下請業者の日程の確保が難しい状態が続いている。年末に向けて、再度、資材の値上げの通知が届いていて、見積りも難しい状況である。【一般土木建築工事業】 小口ばかりの受注のため、売上が伸び悩んでいる。【一般電気工事業】 後継者がいないことに加え、職人不足と高齢化で仕事の依頼を断ることも多い。【木造建築工事業】
小売業	<ul style="list-style-type: none"> 現在、事業再構築補助金を申請しているため、採択されれば、新規設備投資で販売強化を図りたい。【婦人服小売業】 プロパンガス販売と新聞販売の兼業だが、年々顧客が顕著に減少している。高齢化社会で防ぎようがない現状に悩んでいる。【新聞小売業】 売上、客数の増加が続いているが、人材の確保が今年に入って急に厳しくなってきた。また、食材、人件費の上昇も続いていくので、その対応をしっかりと実行していくことが求められる。【菓子小売業(製造小売)】 7～8月の中元時期に入り期待を持って品揃えに望んだが、猛暑続きの天候の影響により、高齢者の外出控えも多く、売上が伸び悩んだ。また、タバコにおいても喫煙者は固定しており大きな変動はなかった。【酒小売業】 前期と同じ状況で、公共工事の突発的な要因で売上が増加しているが、主力商品の実質的な需要は減退している。今年に限るとのことだが、国の補助金により、仕入れ価格が安定していることが救いである。【ガソリンスタンド】
サービス業	<ul style="list-style-type: none"> 梅雨時の長雨と、梅雨が明けてから毎日続く猛暑で売上げが伸びず、頭を抱えている。【食堂、レストラン(専門料理店を除く)】 今期は元々1年で最も収益が高い時期ではあるが、天候にも左右された。経費がどんどん高騰しているが、料金を簡単に値上げできないのが悩みである。【普通洗濯業】 売上は増加し、状況は良い。仕入れ単価の上昇と人員不足について今後の課題である。【持ち帰り飲食サービス業】 今年に入って売上が低下した。従業員不足からお客様の確保が難しくなって、失客の原因になっている。物価高騰により、値上げを検討しているが、それが原因でまた失客することを考えると踏み切ることができない。【美容業】 昨年よりも客数は下がったものの、客単価があがった分、売上は昨年比95%程度となり、平均的な水準に収まったと感じている。この流れを一過性にせず、来夏に引き続き繋げる仕掛けと、新たな試みを検討していく。【他に分類されない娯楽業】

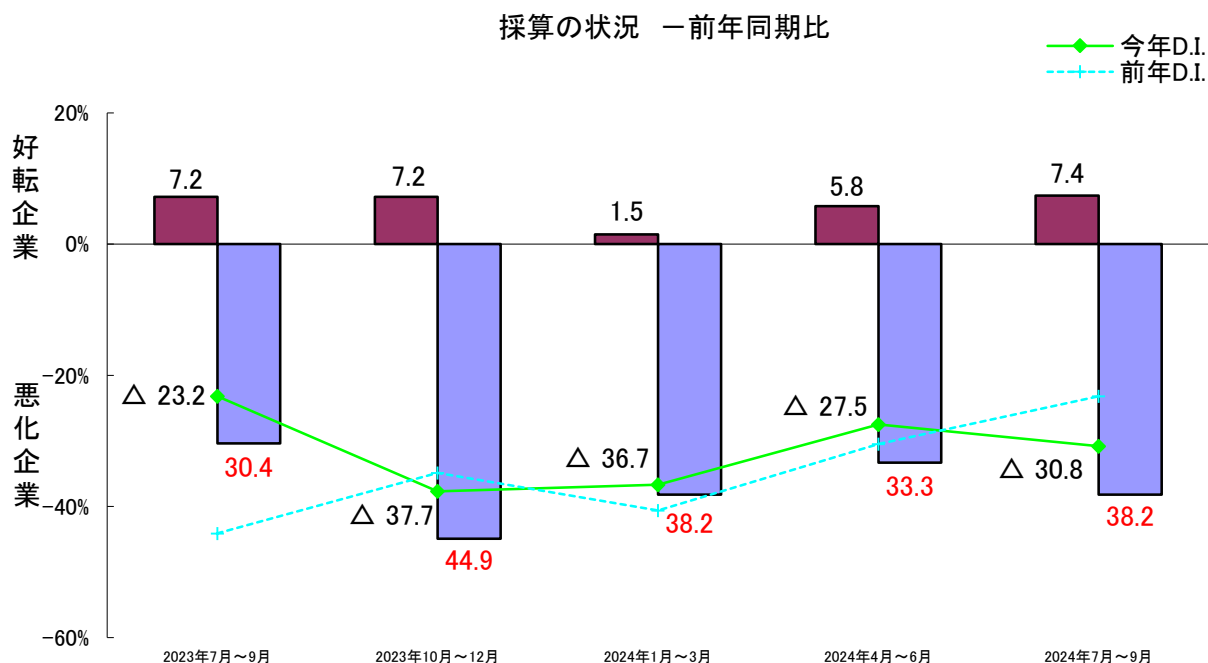
①【サービス業】売上の動向



今期、売上が「増加した」と答えた企業は27.9%と、前期の31.9%から4.0ポイント減少した。また、「減少した」と答えた企業は33.8%と、前期の26.1%から7.7ポイント増加した。したがって、今期D・I値は $\Delta 5.9$ と、前期の5.8から11.7ポイント悪化した。

「来期の見通し」では、増加すると予測した企業は23.5%、減少すると答えた企業は20.6%で、これにより来期のD・I値は2.9と今期の $\Delta 5.9$ より8.8ポイントの改善を予測している。

②【サービス業】採算の動向



今期、採算が「好転した」と答えた企業は7.4%と、前期の5.8%から1.6ポイント増加した。また、「悪化した」と答えた企業は38.2%と前期の33.3%から4.9ポイント増加した。したがって、今期のD・I値は $\Delta 30.8$ と、前期の $\Delta 27.5$ から3.3ポイント悪化した。

「来期の見通し」では、好転すると予測した企業は5.9%、悪化すると予測した企業は36.8%であった。これにより、来期D・I値は $\Delta 30.9$ と今期の $\Delta 30.8$ から0.1ポイントの悪化を予測している。

③【サービス業】新規設備投資の状況

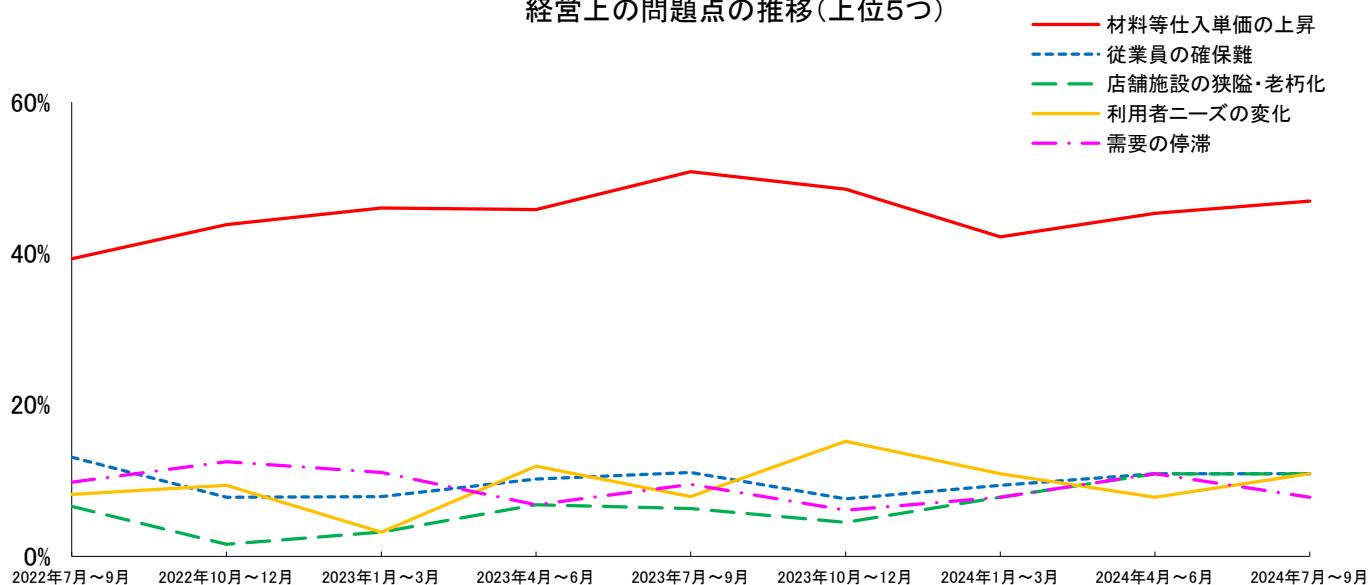
※投資内容は複数回答 (%)

項目 期	実施 して 計 画 する	土 地	建 物	サ ー ビ ス	車 両 ・ 運 搬 具	付 帯 施 設	O A 機 器	福 利 厚 生 施 設	そ の 他	実施 して い 計 画 ない
今 期 (2024年7~9月)	13.2	0.0	11.1	22.2	11.1	44.4	11.1	0.0	11.1	86.8
来 期 (2024年10~12月)	10.3	0.0	28.6	42.9	14.3	0.0	28.6	14.3	0.0	89.7

今期、設備投資を行った企業は13.2%で、前期に設備投資を行った企業(13.0%)を上回った。来期は10.3%の企業が設備投資を計画している。

④【サービス業】経営上の問題点

経営上の問題点の推移(上位5つ)



今期の経営上の問題点は、第1位が「材料等仕入単価の上昇」で46.9%、第2位は「従業員の確保難」、「店舗施設の狭隘・老朽化」、「利用者ニーズの変化」の3項目で10.9%、第5位は「需要の停滞」で7.8%であった。依然として、材料等仕入単価の上昇が顕著になっている。

⑤【サービス業】来期の見通し

売上(収入)額			採算			資金繰り			業況		
2024年 4~6月期	7~9月期	10~12月期	2024年 4~6月期	7~9月期	10~12月期	2024年 4~6月期	7~9月期	10~12月期	2024年 4~6月期	7~9月期	10~12月期
5.8	△5.9	2.9	△27.5	△30.8	△30.9	△7.2	△17.9	△10.4	△2.9	△17.6	△16.2
傾向	↘	↗	傾向	↘	↘	傾向	↘	↗	傾向	↘	↗

(注) ↗ 増加・好転、→ 不変、↘ 減少・悪化を示す。

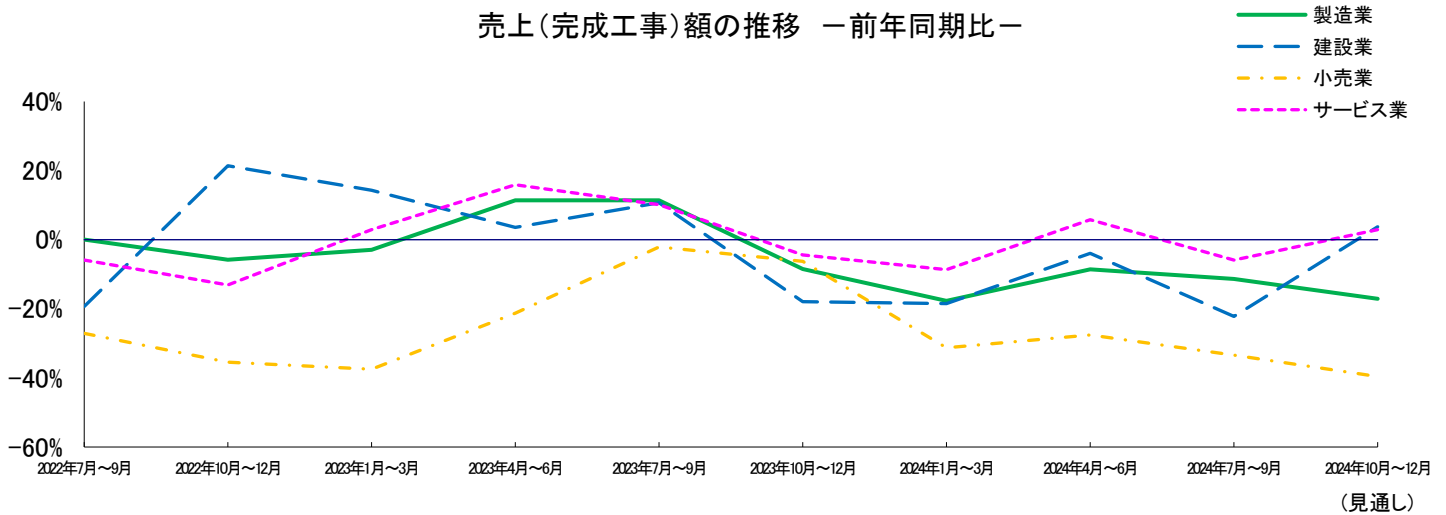
来期の見通しは、「売上(収入)額」、「資金繰り」、「業況」の3項目で増加・好転を示しているが、「採算」は減少・悪化を示している。

調査対象企業のコメントでは、観光や帰省客で賑わった夏で、売上も増加し、過去にない忙しさだった。今後も、原材料費や人件費の高騰に対応しながら、変化する顧客ニーズを的確に捉えていきたいという声が寄せられている。

【売上】

今期、「製造業」（2.8ポイントの悪化）、「建設業」（18.3ポイントの悪化）、「小売業」（23.4ポイントの悪化）、「サービス業」（11.7ポイントの悪化）の4業種すべてで悪化を示した。来期の見通しで改善を示したのは、「建設業」（25.9ポイントの改善）、「サービス業」（8.8ポイントの改善）の2業種で、悪化を示したのは、「製造業」（5.7ポイントの悪化）、「小売業」（6.2ポイントの悪化）の2業種であった。

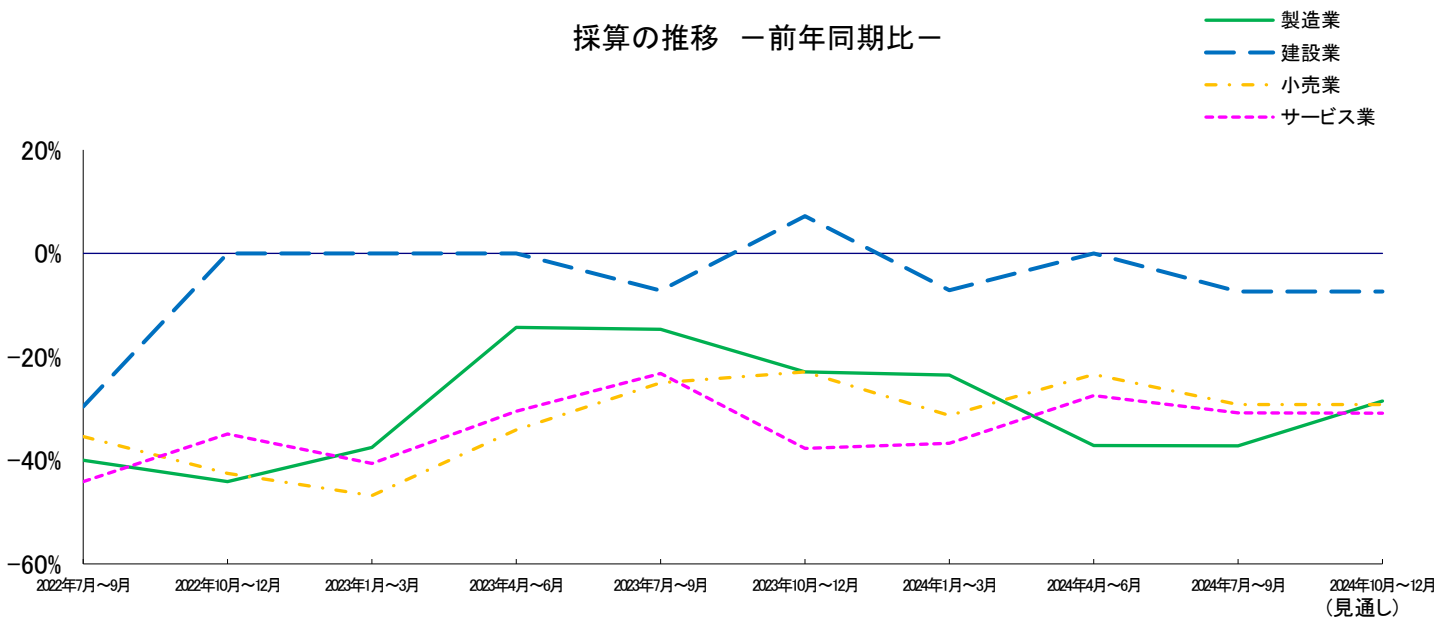
売上(完成工事)額の推移 -前年同期比-



【採算】

今期、「製造業」（0.1ポイントの悪化）、「建設業」（7.4ポイントの悪化）、「小売業」（5.8ポイントの悪化）、「サービス業」（3.3ポイントの悪化）の4業種すべてで悪化を示した。来期の見通しで改善を示したのは、「製造業」（8.7ポイントの改善）で、「建設業」と「小売業」の2業種は不変を示した。また、悪化を示したのは、「サービス業」（0.1ポイントの悪化）であった。

採算の推移 -前年同期比-



〔注〕本レポートの中で「D・I」とある記号は、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略です。例えば各調査項目について増加(又は上昇、好転、長期化)と答えた企業の割合から、減少(又は低下、悪化、短期化)と答えた企業の割合を差し引いた値を示す表示です。マクロ指標等では表れにくい経営者マインドを敏感につかむ事ができます。